

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100137		
法人名	(株)あいわ介護サービス		
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 あいかわの杜		
所在地	岐阜県岐阜市芥見大船1-12-2		
自己評価作成日	平成24年12月9日	評価結果市町村受理日	平成25年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2010_021_kani=true&ji_gyosyoCd=2190100137-00&PrefCd=21&Versi_onCd=021
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私共は、「利用者本位」を利用者はもとより、ご家族や関係者との協力をもって、介護支援することが出来るものと確信しています。「利用者本位」があつて「よりよい介護」「新しい介護」へと続くものであると確信しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は、日々のケアが利用者本位になっているか、利用者が本当に望んでいることなのか、を常に考えて支援している。また、事業所が地域の中で生活させてもらっているという気持ちで、地域行事に積極的に参加したり、定期的に家庭介護教室を開催したりして地域の力となることを目指している。自宅と事業所との生活がスムーズにいこう、毎月の広報紙と一緒に行事や外出計画、献立表を送り、家族と連絡を取りながら協力し合つて利用者を支えている。管理者は同業者との会合を持ち回りで開催し、相談したり情報を取り入れたりしてサービスの向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所理念「癒しの介護を通して、地域の福祉と活性化に貢献します」を研修に取り組み、職員と共有し、実践していきます。	利用者が自立して、馴染みの人と地域の中で暮らし続けることが出来る支援を目指し、利用者の思いやペースを尊重した介護を日々実践している。管理者や職員は理念を理解し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や畑仕事の時に挨拶や会話をしている。地域の行事に参加し住民との交流を継続的に行なっている。	神社の草取り、地域の清掃活動等自治会の活動に参加している。「こども110番」に登録し地域の一員としての役割を担っている。また、夏まつりに来てもらったり、野菜作りの指導をもらったり、地域の方と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回の家庭介護教室を開き、地域の住民との交流にいかしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス提供の実際の話し合いをしながら地域の方との交流につなげている。	メンバーの参加し易い日時を選んで開催し、事業所の近況や外部評価の結果を報告している。地域での役割等も説明し理解を深めているが、自治会等地域の人々の参加が少ない。	地域に開かれた事業所づくりを目指し、地域のいろいろな方の参加が得られるよう、さらなる働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者との連絡を常に行い、関係を築いている。	市担当者とは何でも相談出来る関係を築いている。事故とヒヤリハットの線引きについての相談をし、意見を参考に事業所内で話し合い、リスクマネジメントに繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して施設内講習を開き、日々ケアに努めている。	身体拘束や虐待防止の外部研修にも参加し、職員間で理解を深めている。玄関の鍵はかけてなく、声掛けや日常のさりげない行為でも、拘束に繋がらないか、と話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を徹底して行い、職員会議での議題にあげている。		

小規模多機能型居宅介護施設 あいかわの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各利用者の会議(カンファレンス)で権利擁護をあげ、利用者とも話し合う機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等がある場合は不足のないよう説明を行い、不安や疑問のないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自宅訪問時、送迎時に家族と会う機会が多く相談や要望を聞いている。それらを施設に持ち帰り管理者等と相談したり、職員会議で話し合いサービスに活かしている。	訪問や送迎時に体調確認と共に家族に意見や要望を聞き、利用者の細かい要望にも応えるようにしている。家族からの要望で、通いの送迎予定時間が交通量等により少し遅れる場合でも、必ず家族に連絡するようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員の意見、提案を議題にあげ、管理者は率直に汲みとる。	全職員による職員会議を毎月開催し、意見や提案を話し合っている。職員間の良い関係づくり・勤務体制・利用者の残菜確認方法、入浴時の介助椅子の備品購入等の意見が取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員環境・条件は本社にて決定することである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内・外研修を年間通して行い、それぞれのスキルアップに貢献している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜市小規模連絡会への参加や他施設への訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を作り上げる為、傾聴・受容・共感を心掛けるよう職員に伝える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係作りに重点を置き、相談や要望を十分に聞き、職員会議で話し合い関係作りに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入時、本人と家族との話し合いを行い、体験利用を進め介護保険のその他のサービスの説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	より自宅に近い環境で本人、職員の生活の場としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでなく、家族もサービスを担う一員として本人を支えていけるように連絡を常に行い、提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の今までの生活を断ち切ることなく継続していきながら、小規模のサービスをからませていけるように支援している。	利用者の意向に沿い、地域での生活の延長として、通い慣れた商店での買い物や喫茶店に出かけている。通いの利用時に知人や親戚に立ち寄ってもらうなど、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように職員が利用者同士の関係作りを進める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係性を維持し、管理者及び介護支援専門員が支援や相談の窓口になるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、意向等を職員間で把握するよう努めている。また「利用者本位」に努めるよう、職員に伝えている。	日々のかかわりの中で思いや意向を聞いている。本人からの把握が困難な場合は、家族に利用者が発した言葉や行動を「連絡ノート」に記入してもらい思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回、アセスメントだけでなく日常的な会話の中からも常時、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の一日の過ごし方を維持しながら、共同生活の場を築く。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族及び関係者との日常の会話の中で計画についての相談・意見等を聞きとり、考慮して介護計画を作成していく。	利用者・家族からの意見や要望を聞き、計画の原案を作成している。さらに職員との話し合いで利用者の出来ること、望んでいることを取り入れ介護計画を作成している。また、毎月、項目毎に評価もしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者別に個別記録を録り、職員間で情報の共有を図り、カンファレンス、日々の介助に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族等の状況やニーズにより、通い・訪問・宿泊を柔軟かつ多機能に対応している。		

小規模多機能型居宅介護施設 あいかわの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握を市役所、近隣の人々の情報から得るように努力し、本人の生活に活かしていけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての利用者が主治医の受診している。家族が付き添えない時は看護師が同行し、結果を家族・職員に報告し施設内での共有に努めている。急変時、主治医の施設への往診も依頼できる関係を築いている。	利用者全員が、家族の付添いでかかりつけ医を受診している。看護師が同行することもあり、定期受診の送迎支援も行い、情報を共有している。また、急変時に往診してもらえる関係を築いている医師もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りにて日常の生活の情報を看護師へ伝え、外部への提供もその都度行えるように管理している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時に病院関係者とのカンファレンスを行い、日常的に病院との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の利用者の家族と話し合い、支援することに努める。	契約時に事業所の方針を説明し、利用者・家族の希望を聞き話し合っている。状態が不安定な時や入退院を繰り返すような時は、かかりつけ医・家族と相談し、事業所の出来る限りの支援をしている。また、急変時の対応に備えて、定期的に職員の研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の講習や消防署での初期対応講習を職員全てが受け、定期的に施設内講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応訓練を年2回行い、避難・誘導等の訓練を利用者を含め適切に行えるように努めている。	利用者と共に夜間想定を含む避難訓練を行っている。避難場所を確認し、誘導・消火を全職員が行えるよう努めている。地域の防災訓練に参加して協力を呼びかけているが、協力体制を築くまでには至っていない。	災害時の避難誘導に地域住民の協力が不可欠であることを伝え、今後も訓練への参加や協力体制が得られるように、継続して働きかけることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者の尊厳とプライバシーを常に保ち対応している。	親しくなっても言葉遣いや対応に気をつけ、利用者の尊厳を尊重して、接するよう心がけている。管理者は職員の会話や利用者への言葉掛け、対応などに気を配り、気になる時にはその場で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者の自己決定を活かし、希望・要望を日常生活の中に取り入れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に縛られず、個々にその人の生活パターンを活かしていくよう努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣服の購入のための買い物支援や洗髪後のブロー、爪の手入れなど女性には特に本人の気持ちを誘うように注意し、男性の髭剃りなども支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の厨房にて毎日、調理したばかりの食事を提供し、病状に合った調理法で支援している。	朝食に和・洋の選択メニューがあり、状態に合わせた食事形態や希望を取り入れるようにしている。野菜の収穫やおやつ作りを一緒に行い、会話をしながら楽しく食事できるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房、管理栄養士、介護、看護で話し合い、生活習慣を汲み取った食事が提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに努め、個々の利用者の口腔チェックする。		

小規模多機能型居宅介護施設 あいかわの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握して、尿意・便意を表さなくても時間を見計らいトイレに誘導している。トイレで排泄する習慣を大切にしながら自立に向けた支援をしている。	家庭での排泄習慣や個別記録から排泄パターンを把握し、時間を見てトイレ誘導している。家庭でもトイレへ行く習慣を維持出来るよう家族にも伝えていく。通いの回数を増やし、規則正しい生活をする事で、排泄の失敗をなくし、清潔保持に繋がった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為に管理栄養士・看護師を中心に厨房・介護職員が話し合い、食物の工夫、運動などに取り組むようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通院前、リハビリ後といった個々の希望により曜日、時間帯を決めずに支援している。	利用者の希望や都合に合わせた時間帯で毎日でも入浴出来る。自宅での入浴も対応している。入浴を好まない利用者には、本人が入りたいという気持ちになるよう、言葉掛けや誘い方を変えて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠時の見守り、昼寝の斡旋をし個々の利用者にあった睡眠時間をとる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の提示を求め、個々の利用者の服薬内容の確認を看護師を中心に全職員に行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の分担や楽しみを個々の利用者間でわかるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、喫茶店、お寺など利用者の希望に沿って出かけている。近所の散歩はリハビリを兼ねて個別に付き添っている。又毎月利用者の希望を取り入れた遠足の外出計画を立て、家族と協力しながら支援している。	近所への散歩には日常的に出かけ、買い物や喫茶店などにも行っている。花見や展示会など毎月の外出計画を本人・家族に知らせ、通いに合わせて参加出来るようにし、家族の参加協力を得ながら支援している。	

小規模多機能型居宅介護施設 あいかわの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は個々の能力と支援状態で施設内で十分に話し合い、使える機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により知人・親類などへの電話や季節の手紙(年賀状・暑中見舞い)の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では季節感を出し、日々の生活になじませる。音・光・温度は常に職員が維持管理している。	廊下の天井が高く、天窓から光が差し込み、明るく暖かい雰囲気のある共用空間となっている。職員は、常に換気や室温に配慮して居心地よく過ごせるよう努めている。車椅子の利用者も居間でソファや椅子に座りゆったり過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間の中でのプライバシーを確保し、一人になれる場所を作り利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊りの部屋には着替えに服や使い慣れた日用品を置いている。連泊の利用者は自宅から好みの服を衣装ケースに入れ居心地の良い部屋作りをしている。	安心して泊まれるよう家族に説明し、馴染みのある物を持参してもらい、使い慣れたパソコンや時計を置いている。泊まりの利用者には、慣れた同じ部屋を提供している。状態に合わせてトイレに近い部屋を用意することもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全職員に個々の利用者に「できること」「わかること」を周知し、安全且つ安楽な状態を維持するよう努める。		